

d. 爬虫類

表 10.8-19 に示す 2 目 4 科 5 種の保全すべき爬虫類が確認された。

生態的特徴と確認状況を表 10.8-20 に、確認位置を図 10.8-9 に示す。

表 10.8-19 保全すべき爬虫類一覧

No.	目	科	種	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RL	埼玉県 RDB
							台地丘陵
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	-	-	NT	DD
2	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	-	-	-	NT2
3		ナミヘビ	ジムグリ	-	-	-	NT1
4			アオダイショウ	-	-	-	NT2
5			シマヘビ	-	-	-	EN
6			ヒバカリ	-	-	-	NT2
計	2 目	3 科	6 種	0 種	0 種	1 種	6 種

表 10.8-20 (1) 保全すべき爬虫類の生態的特徴と確認状況

No.	種名	選定基準	生態的特徴	現地調査での確認状況
1	ニホンイシガメ	【環境省RL】：NT 【埼玉県RDB】：DD	【生態的特徴】 ・河川中流域を中心に、上流域の山間部から下流域の都市化を免れている里地に及び、水路、池沼、湿地にも広く生息している。 【県内での生息状況】 ・台地・丘陵帯の河川中流域は西日本で多く見られる生息適地の環境に類似しているが、記録はごくわずかであり、確実な繁殖は確認されていない。	【確認状況】 ・春季調査時に事業計画地北西部に位置する工業団地内調節池にて、岸辺で摂食する成体を確認。
2	ヒガシニホントカゲ	【埼玉県RDB】：NT2	【生態的特徴】 ・低地から山地まで広範囲に生息し、林地から開けている林道沿いや、川辺などの日当たりが良い場所に昼間みられる。 【県内での生息状況】 ・低地帯から山地帯まで広くに生息している。低地帯では、都市化等が進行した県南部、大規模開発が盛んな県東部で個体数が減少している。	【確認状況】 ・春季及び夏季調査時に大森調節池に隣接した明るい樹林の林床や土手の草地上で日光浴中の成体を確認したほか、大森調節池近くの工場の植え込みで採餌する成体を確認。
3	ジムグリ	【埼玉県RDB】：NT1	【生態的特徴】 ・低地から山地の林地や畑地などに生息し、「地潜り」の名の通り地中の穴によく潜る。気温の高い夏季は活動が鈍化し、春と秋は活発に活動する。 【県内での生息状況】 ・低地帯から山地帯まで生息しているが、森林環境に依存するため、分布の中心は台地・丘陵帯から山地帯である。	【確認状況】 ・秋季調査時に大森調節池に隣接する樹林の林床にて腐朽した材の下に潜む成体を確認。
4	アオダイショウ	【埼玉県RDB】：NT2	【生態的特徴】 ・低地から山地まで広く生息し、森林、水田、住宅地まで様々な環境に適応している。樹上性が強く、鳥類のヒナや卵、ネズミ類を好み、幼蛇はカエルやトカゲを餌とするため、これら餌資源が豊富な里山環境は生息適地といえる。 【県内での生息状況】 ・低地帯から山地帯まで広く生息している。低地帯では、都市化等が進行した県南部、大規模開発が盛んな県東部は、建物構造の鉄骨化、鉄筋化により生息環境や餌資源が減少している。	【確認状況】 ・春季及び秋季調査時に査範囲北側を流れる不老川河岸の蛇籠の上で日光浴をする成体と不老川に近い草地脇の裸地にて日光浴中の幼体を確認。

注) 生態的特徴は「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」(平成 30 年 3 月 埼玉県)を参考に記載した。

表 10.8-20 (2) 保全すべき爬虫類の生態的特徴と確認状況

No.	種名	選定基準	生態的特徴	現地調査での確認状況
5	シマヘビ	【埼玉県RDB】：EN	<b>【生態的特徴】</b> ・低地から山地まで広く生息し、日当たりのよい水田、草むら、畑地、池沼の周辺などを好む。 <b>【県内での生息状況】</b> ・低地帯から山地帯にかけて生息している。普通にみられる種とされ前版ではランク外だったが、近年、関東平野とその周辺では減少が著しい。	<b>【確認状況】</b> ・夏季調査時に大森調節池の草が刈り取られた土手で日光浴中の成体を確認。
6	ヒバカリ	【埼玉県RDB】：NT2	<b>【生態的特徴】</b> ・低地から山地まで広く生息している。水辺をよく好み、水田、畑地、湿地、池沼の周辺などでみられる。 <b>【県内での生息状況】</b> ・低地帯から低山帯まで広くに生息している。餌資源をカエル類に依存するため、水田の減少は個体数の減少に直結する。特に低地帯では生息適地の局所化が顕著な県南部、東部で稀である。	<b>【確認状況】</b> ・秋季調査時に大森調節池に隣接する樹林の林床にて腐朽した材の下に潜む成体を確認。

注) 生態的特徴は「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」(平成 30 年 3 月 埼玉県)を参考に記載した。

e. 両生類

表 10.8-21 に示す 1 目 2 科 2 種の保全すべき両生類が確認された。

生態的特徴と確認状況を表 10.8-22 に、確認位置を図 10.8-9 に示す。

表 10.8-21 保全すべき両生類一覧

No.	目	科	種	文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	埼玉県 RDB
							台地丘陵
1	無尾	アカガエル	ニホンアカガエル	-	-	-	VU
2		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	-	-	-	NT2
計	1 目	2 科	2 種	0 種	0 種	0 種	2 種

表 10.8-22 保全すべき両生類の生態的特徴と確認状況

No.	種名	選定基準	生態的特徴	現地調査での確認状況
1	ニホンアカガエル	【埼玉県RDB】：VU	<b>【生態的特徴】</b> ・丘陵地の雑木林の林床、河川敷内の湿地などに生息し、2～4月頃湿田、湿地、浅い池沼、小さな水たまりなどに産卵する。 <b>【県内での生息状況】</b> ・台地・丘陵帯から低地帯にかけて広くに生息しているが、秩父地方には生息していない。台地・丘陵帯では耕作放棄等による湿田の減少、道路新設や宅地や工業団地の造成により生息地が減少している。	<b>【確認状況】</b> ・夏季及び秋季調査時に大森調節池の敷地内の草地や樹林で多くの成体や幼体を確認。また、繁殖期(2月)には大森調節池にて多数の卵塊と、夜間調査時に鳴声を確認。
2	シュレーゲルアオガエル	【埼玉県RDB】：NT2	<b>【生態的特徴】</b> ・低山から丘陵地にかけて雑木林などに生息している。3～5月頃に雑木林など生息地に隣接した水田の畦や湿地に泡状の卵塊を産む。 <b>【県内での生息状況】</b> ・低山帯から低地帯にまで広く分布しているが、分布の中心は谷戸田が散在する台地・丘陵帯である。開発の進行により生息適地がほとんど失われてしまった低地帯での個体数はわずかである。	<b>【確認状況】</b> ・夏季に大森調節池の岸辺で鳴声を確認。

注) 生態的特徴は「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」(平成 30 年 3 月 埼玉県)を参考に記載した。

希少動植物保護の観点から  
一部資料を非公開とする

図 10.8-9 保全すべき種の確認位置（爬虫類・両生類）

f. 昆虫類

表 10.8-23 に示す 2 目 3 科 3 種の保全すべき昆虫類が確認された。

生態的特徴と確認状況を表 10.8-24 に、確認位置を図 10.8-10 に示す。

表 10.8-23 保全すべき昆虫類一覧

No.	目	科	種	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RL	埼玉県 RDB
							台地丘陵
1	カメムシ	アメンボ	エサキアメンボ	-	-	NT	NT1
2	チョウ	セセリチョウ	オオチャバネセセリ	-	-	-	NT2
3		ヤガ	コシロシタバ	-	-	NT	-
計	2 目	3 科	3 種	0 種	0 種	2 種	2 種

表 10.8-24 保全すべき昆虫類の生態的特徴と確認状況

No.	種名	選定基準	生態的特徴	現地調査での確認状況
1	エサキ アメンボ	【環境省RL】：NT 【埼玉県RDB】：NT1	【生態的特徴】 ・小型の繊細で美しいアメンボで、体は暗赤褐色～褐色であり、体側は銀白色の毛による縦帯がある。 【県内での生息状況】 ・かつては東部低地から大宮台地までの荒川以東の低標高地に限って生息する種と考えられていたが、近年では比企丘陵や秩父地方からも発見されている。	【確認状況】 ・夏季調査時に大森調節池のヨシ原で1個体を確認。
2	オオチャバネ セセリ	【埼玉県RDB】：NT2	【生態的特徴】 ・アズマネザサ、クマザサ、メダケなどのタケ・ササ類の生える平地～山地の樹林縁の草地や草原、河川敷などに生息する。成虫は様々な花を訪れる。 【県内での生息状況】 ・低地から山地帯にかけて広く分布するが、平野部、特に低地では 1980年代後半から徐々に個体数が減少し、2000年以降は急減した。	【確認状況】 ・夏季調査時に大森調節池付近の草地を飛翔する1個体を確認。
3	コシロ シタバ	【環境省RL】：NT	【生態的特徴】 ・濃灰色地に褐色の複雑な帯状模様が入った前翅を持つシタバガ。中央の小白色斑が目立つ。後翅は黒色で大きな白紋がある。都市郊外の雑木林でもよく見られる。幼虫はクヌギの葉を食べて育つ。 【県内での生息状況】 ・本州、四国、九州。里山の雑木林に見られる種で、幼虫の食餌植物はクヌギ。	【確認状況】 ・夏季調査時に大森調節池の雑木林と池の間に設置したライトトラップにより1個体が確認された。

注) 生態的特徴は「埼玉県レッドデータブック2018 動物編」(平成30年3月 埼玉県)を参考に記載した。

希少動植物保護の観点から  
一部資料を非公開とする

図 10.8-10 保全すべき種の確認位置（昆虫類）

g. 魚類

表 10.8-25 に示す 3 目 3 科 3 種の保全すべき魚類が確認された。

生態的特徴と確認状況を表 10.8-26、確認位置を図 10.8-11 に示す。

表 10.8-25 保全すべき魚類一覧

No.	目	科	種	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RL	埼玉県 RDB
1	コイ	ドジョウ	ドジョウ	-	-	NT	-
2	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	-	-	VU	NT2
3	スズキ	ハゼ	ジュズカケハゼ	-	-	NT	-
計	3 目	3 科	3 種	0 種	0 種	3 種	1 種

表 10.8-26 保全すべき魚類の生態的特徴と確認状況

No.	種名	選定基準	生態的特徴	現地調査での確認状況
1	ドジョウ	【環境省RL】：NT	<p>【生態的特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水田や農業水路、湿地帯などの流れのない泥底の環境に生息する。初夏に、水田や溜りなどの一時的水域に遡上して産卵を行う。</li> </ul> <p>【県内での生息状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本全国に分布。国外ではアムール水系からインドシナ半島。</li> </ul>	<p>【確認状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>春季には、不老川の計画地上流部、下流部、谷川の上流部、林川分流後で計12個体を確認。夏季には、不老川の計画地上流部、下流部、谷川の上流部、下流部、林川分流後、林川の谷川分流後、大森調節池で計19個体を確認。秋季には、不老川の計画地上流部、下流部、谷川の上流部、下流部、林川の谷川分流後、大森調節池で計29個体を確認。</li> </ul>
2	ミナミメダカ	【環境省RL】：VU 【埼玉県RDB】：NT2	<p>【生態的特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体側後半の黒色素胞は網目模様を形成しない。体側後方に染み状の斑紋がない。オスの背鰭の欠刻は深い個体が多い。全長約2～3cm。</li> </ul> <p>【県内での生息状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>荒川、利根川水系に分布する。平野部の河川、池沼、水田、用水路などの水際帯に水生植物群落が必要である。</li> </ul>	<p>【確認状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>春季には、不老川の計画地上流部で3個体を確。夏季には、谷川の林川分流後、林川の谷川分流後で計2個体を確認。秋季には、不老川の計画地下流部、林川の谷川分流後、大森調節池で計3個体を確認。</li> </ul>
3	ジュズカケハゼ	【環境省RL】：NT	<p>【生態的特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体はやや測扁した円筒形で、尾柄は細い。平野部の湖沼やその周辺の水路、河川などに生息する。</li> </ul> <p>【県内での生息状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北海道から神奈川県太平洋沿岸、北海道から兵庫県の日本海沿岸に広く見られる。</li> </ul>	<p>【確認状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏季には、不老川の計画地上流部、下流部、大森調節池で計13個体を確認。秋季には、不老川の計画地上流部、下流部、大森調節池で計8個体を確認。</li> </ul>

注) 生態的特徴は「埼玉県レッドデータブック2018 動物編」(平成30年3月 埼玉県)及び「山溪ハンディ図鑑15 日本の魚類」(平成26年1月 株式会社山と溪谷社)を参考に記載した。

希少動植物保護の観点から  
一部資料を非公開とする

図 10.8-11 保全すべき種の確認位置（魚類）

## h. 底生動物等

表 10.8-27 に示す 3 目 4 科 4 種の保全すべき底生動物等が確認された。

なお、カワコザラガイ属については現地の確認状況からメリケンコザラもしくはカワコザラガイと考えられたが種の同定には至らなかったため、カワコザラガイ属と記載した。

また、カワコザラガイだった場合環境省レッドリスト 2020 に該当するため、保全すべき種に加えた。生態的特徴と確認状況を表 10.8-28 に、確認位置を図 10.8-12 に示す。

表 10.8-27 保全すべき底生動物等一覧

No.	目	科	種	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RL	埼玉県 RDB
							台地丘陵
1	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	ナミウズムシ	-	-	-	LP
2	汎有肺	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ	-	-	DD	-
3		カワコザラガイ	カワコザラガイ属	メリケンコザラ	-	-	-
-				カワコザラガイ	-	-	CR
4	トビケラ	アシエダトビケラ	コバントビケラ	-	-	-	NT2
計	3 目	4 科	4 種	0 種	0 種	2 種	2 種

表 10.8-28 生態的特徴と確認状況（底生動物）

No.	種名	選定基準	生態的特徴	現地調査での確認状況
1	ナミウズムシ	【埼玉県RDB】：LP	<b>【生態的特徴】</b> ・関東地方では低地帯から山地帯にかけて広く分布し、湧水や河川の源流付近、清流の波立つ瀬の部分にみられる。 <b>【県内での生息状況】</b> ・山地帯で普通に分布しているが、平野部での生息地は局所的である。	<b>【確認状況】</b> ・春季に不老川の計画地上流部で3個体を確認。夏季には林川の谷川分流後で4個体を確認。
2	コシダカヒメモノアラガイ	【環境省RL】：DD	<b>【生態的特徴】</b> ・泥のくぼみや草本類の根元、湿ったコンクリート壁などに付着する。殻高は5mm、殻径は25mm前後で殻口高は最高の5割程度を占める。 <b>【県内での生息状況】</b> ・日本各地に分布し、おもに水田の畦や湿地などの水際に生息する。	<b>【確認状況】</b> ・春季に谷川の計画地上流部で1個体を確認。夏季に林川の谷川分流後で2個体を確認。
3	カワコザラガイ属 (カワコザラガイ)	【環境省RL】：CR	<b>【生態的特徴】</b> ・農耕地の溜池や水路、湖や河川などの緩流域の水草や落ち葉などに付着する。貝殻は笠形で、殻表には不規則な成長脈がある。 <b>【県内での生息状況】</b> ・主に低地帯で久喜市や行田新田、川越市伊佐沼、荒川旧河川の池沼等に分布している。	<b>【確認状況】</b> ・春季に谷川の計画地下流部で2個体を確認。夏季には、不老川の計画地下流部で1個体を確認。
4	コバントビケラ	【埼玉県RDB】：NT2	<b>【生態的特徴】</b> ・幼虫は主に流水性であり、水質のよい河川中・下流域の緩流部や流水の流れ込む湖沼に生息し、落ち葉が堆積した部分や抽水植物の根際、石の陰などが生息環境である。 <b>【県内での生息状況】</b> ・低山帯の秩父地方から台地・丘陵帯の狭山付近までの荒川水系中流域から比較的まとまった数の産地が知られている。	<b>【確認状況】</b> ・夏季には、林川の谷川分流後で1個体が確認。

注) 生態的特徴は「埼玉県レッドデータブック2018 動物編」(平成30年3月 埼玉県)及び「日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類」(平成16年 株式会社ピーシーズ)を参考に記載した。

希少動植物保護の観点から  
一部資料を非公開とする

図 10.8-12 保全すべき種の確認位置（底生動物等）

## 10.8.2 予測

### 1) 工事（建設機械の稼働，資材運搬等の車両の走行，造成等の工事）による影響及び存在・供用（造成地の存在）による影響

#### (1) 予測内容

予測項目は，工事（建設機械の稼働，資材運搬等の車両の走行，造成等の工事）及び存在・供用（造成地の存在）による動物相及び保全すべき種への直接的・間接的影響とする。なお，現地調査において保全すべき生息地は確認されなかったことから，影響については予測を行わないこととする。本事業における直接的・間接的影響要因は表 10.8-29 に示すとおりである。

表 10.8-29 動物への直接的・間接的影響要因

区分	影響要因	
工事（建設機械の稼働，資材運搬等の車両の走行，造成等の工事）	直接的影響	・生息環境の変化 ・移動経路の分断 ・造成工事による水質の変化
	間接的影響	・建設機械の稼働及び工事車両の走行に伴う騒音・振動の発生
存在・供用（造成地の存在）	直接的影響	・生息環境の変化 ・移動経路の分断

#### (2) 予測地域

予測地域は，動物種及び注目すべき生息地に対する影響が想定される地域とし，調査地域と同様に，事業実施区域及び周辺 200m の範囲を基本とし，行動圏が広い種については，その行動圏に応じ適宜予測地域を広げた。

#### (3) 予測対象時期

工事中は工事計画を考慮し，動物相及び保全すべき種への影響が最大となる時期として，土地改変が最大となる時期，建設機械の稼働・資材及び機械の運搬に用いる車両の運行が最大となる時期とした。存在（造成地の存在）による影響は，事業完了後に改変区域の植生が回復・成長し，動物の繁殖が行われるなど生態系として安定した時期とした。

#### (4) 予測方法

##### ア. 予測手順

予測手順を図 10.8-13 に示す。本事業による影響は下記の方法で予測した。

##### a. 直接的影響

工事に伴う土地の形状変更についての対象事業計画を，動物相及び保全すべき種の生息環境の調査結果と重ね合わせるにより，改変量を把握した上で予測した。

##### b. 間接的影響

建設機械の稼働及び資材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動等の影響が及ぼす行動範囲の変化や繁殖行動等の阻害の程度について，関連項目の予測結果及び事例の引用により予測した。

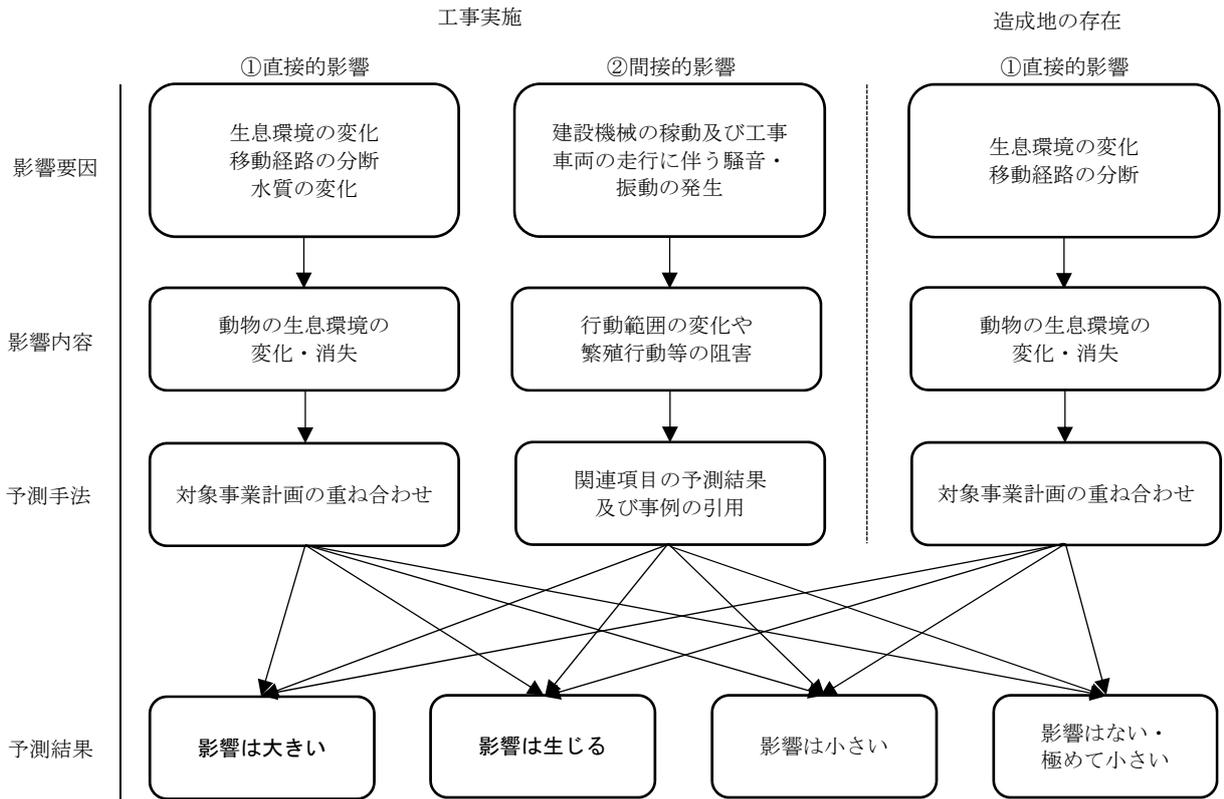


図 10.8-13 動物に係る予測手順のフロー

(5) 予測の前提条件

本事業は、神社区域及び河川区域を除き全域を改変する計画であり、林神社と稲荷神社については、現況保存を前提として取り扱う。

また、計画地内東部の谷川沿いに3か所の街区公園を整備するとともに、所沢市公共施設緑化ガイドライン等を踏まえて周辺環境との調和や騒音・振動等による環境悪化をもたらさないよう、地区の境界や用途の境界に緩衝帯（緩衝緑地）を設置する。なお、産業地の外周に高木植栽空間（高木植栽帯）を配置する。

(6) 予測結果

ア. 動物相への影響

a. 直接的影響

工事用地の土地形状変更に伴い、動物の生息基盤である植生が消失し、対象事業実施区域の特定の環境に依存している動物は影響を受けるが、「10.9 植物」で示すとおり、各植生の改変率は低く、予測地域全体の植生構成にも変化が生じないことから、予測地域において特定の種が著しく減少することはないと考えられる。

また、水生生物についても主要な生息環境である河川等は改変しないこと、「10.5水質」で示すとおり、濁水に対する環境保全措置を講ずることから予測地域において生息環境の著しい悪化は避けられると考えられることから直接的影響は小さいと予測される。

b. 間接的影響

建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象事業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるが、動物は移動能力を持ち合わせていること、周辺にも生息環境が分布することから、間接的影響は小さいと予測される。

イ. 保全すべき種への影響

保全すべき種への直接的・間接的影響について、種ごとの影響予測結果を表 10.8-30～表 10.8-36 に示す。

表 10.8-30 (1) 保全すべき種の影響予測結果 (鳥類)

種和名	確認状況	予測結果	
		直接的影響	間接的影響
コサギ	・冬季に事業計画地内で1個体及び不老川で採餌中の1個体の計2個体を確認。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は移動能力を持ち合わせていること、本種の生息環境である水域環境は対象事業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。	・建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象事業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は移動能力を持ち合わせていること、本種の生息環境である水域環境は対象事業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測される。
ヒメアマツバメ	・猛禽類調査時に事業計画地上空を飛翔する個体を確認。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は予測地域で繁殖しておらず、一時的に通過する個体と考えられることから、直接的影響は小さいと予測される。	・建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象事業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は予測地域で繁殖しておらず、一時的に通過する個体と考えられることから、間接的影響は小さいと予測される。

表 10.8-30 (2) 保全すべき種の影響予測結果 (鳥類)

種和名	確認状況	予測結果	
		直接的影響	間接的影響
ヤマガラ	・猛禽類調査時に、事業計画地内及び周辺で確認。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は移動能力を持ち合わせていること、本種の生息環境である樹林環境は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。	・建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は移動能力を持ち合わせていること、本種の生息環境である樹林環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測される。
コシアカツバメ	・秋季調査時に大森調節池上空を飛翔する個体を確認。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は予測地域で繁殖しておらず、一時的に通過する個体と考えられることから、直接的影響は小さいと予測される。	・建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は予測地域で繁殖しておらず、一時的に通過する個体と考えられることから、間接的影響は小さいと予測される。
オオヨシキリ	・猛禽類調査時に事業計画地内で、また、事業計画地周辺の大森調節池内の草地でも確認。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は移動能力を持ち合わせていること、本種の生息環境である高茎草地は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。	・建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は移動能力を持ち合わせていること、本種の生息環境である高茎草地対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測される。
ホオジロ	・通年で事業計画内及び周辺で確認。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は移動能力を持ち合わせていること、本種の生息環境である耕作地や草地環境は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。	・建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は移動能力を持ち合わせていること、本種の生息環境である耕作地や草地環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測される。

表 10.8-31 (1) 保全すべき種の影響予測結果 (猛禽類)

種和名	確認状況	予測結果	
		直接的影響	間接的影響
ミサゴ	・現地調査において、事業計画地及び周辺の上空を飛翔する様子を3回確認。繁殖に係る行動は確認されなかったことから、調査地域に繁殖地は存在しないと考えられた。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、確認されたのは一時的に通過した個体と考えられることから、直接的影響は小さいと予測される。	・建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、確認されたのは一時的に通過した個体と考えられることから、間接的影響は小さいと予測される。

表 10.8-31 (2) 保全すべき種の影響予測結果 (猛禽類)

種和名	確認状況	予測結果	
		直接的影響	間接的影響
ハチクマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査において、事業計画地周辺の高空を北西方向に飛行する様子を1回確認。確認されたのは本種の渡来期であり、繁殖に係る行動も確認されなかったことから、渡り途中の個体が偶発的に確認されたものと推察され、調査地域に繁殖地は存在しないと考えられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、確認は渡り途中で一時的に通過した個体と考えられることから、直接的影響は小さいと予測される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、確認は渡り途中で一時的に通過した個体と考えられることから、間接的影響は小さいと予測される。</li> </ul>
トビ	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査において事業計画外の畜舎周辺で2回確認された。繁殖に係る行動は確認されなかったことから、調査地域に繁殖地は存在しないと考えられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、本種の生息環境である樹林や耕作地は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、本種の生息環境である樹林や耕作地は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>
ツミ	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査において事業計画地南西部の大森調節池境界付近の上空から鳴声を1回確認。確認回数も少なく、繁殖に係る行動は確認されなかったことから、調査地域に繁殖地は存在しないと考えられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、確認は偶発的で一時的に通過した個体と考えられることから、直接的影響は小さいと予測される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、確認は偶発的で一時的に通過した個体と考えられることから、間接的影響は小さいと予測される。</li> </ul>
ハイタカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査において4回、事業計画地内及び周辺を飛行する様子が確認された。確認時期は本種の越冬季にあたるため、越冬や移動のため一時的に事業計画地周辺を利用していただけと推察され、繁殖に係る行動も確認されなかったことから、調査地域に繁殖地は存在しないと考えられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、確認は越冬のため一時的に通過した個体と考えられることから、直接的影響は小さいと予測される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、確認は越冬のため一時的に通過した個体と考えられることから、間接的影響は小さいと予測される。</li> </ul>
オオタカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査期間を通して48回確認。[ ]の樹林内に飛跡が集中しており、鳴声やディスプレイ飛行等繁殖に係る行動が複数回確認された。また、8月には当該箇所周辺で本年生まれと思われる幼鳥が確認された。以上のことから本年は[ ]で繁殖し、無事に幼鳥が巣立ったものと判断した。なお、本調査において営巣木の特定には至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予測地域に1つがいの繁殖地が存在し高利用域の一部が対象事業実施区域に含まれる。工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、含まれる高利用域メッシュは全体の3.2%とわずかであること、営巣地は事業計画地と約720m離れていること、本種の採餌場である林縁の草地や畑地環境は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予測地域に1つがいの繁殖地が存在し高利用域の一部が対象事業実施区域に含まれる。建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、含まれる高利用域メッシュは全体の3.2%とわずかであること、営巣地は事業計画地と約720m離れていること、本種の採餌場である林縁の草地や畑地環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>

表 10.8-31 (3) 保全すべき種の影響予測結果 (猛禽類)

種和名	確認状況	予測結果	
		直接的影響	間接的影響
サシバ	・現地調査において2回確認。確認されたのは本種の渡来期であり、繁殖に係る行動も確認されなかったことから、渡り途中の個体が偶発的に確認されたものと推察され、調査地域に繁殖地は存在しないと考えられた。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、確認は渡り途中で一時的に通過した個体と考えられることから、直接的影響は小さいと予測される。	・建設機械の稼働及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、確認は渡り途中で一時的に通過した個体と考えられることから、間接的影響は小さいと予測される。
チョウゲンボウ	・現地調査において事業計画地及び周辺で22回確認。事業計画地周辺の河畔林や草地で狩りをする様子が確認された。事業計画地周辺には本種の営巣環境になりうる工場等の構造物が点在しているものの、繁殖に係る行動は確認されていないことから、調査地域に繁殖地は存在しないと考えられた。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、本種の生息・採餌環境である樹林や草地環境は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。	・建設機械の稼働及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、本種の生息・採餌環境である樹林や草地環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。
ハヤブサ	・現地調査において計9回確認された。本種の越冬季にあたる2月、3月に確認が集中していること、確認も上空を飛翔するのみであり、繁殖に係る行動が確認されていないことから、調査地域に繁殖地は存在しないと考えられた。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、主な確認は越冬のため一時的に通過した個体と考えられることから、直接的影響は小さいと予測される。	・建設機械の稼働及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は予測地域で繁殖していないと考えられること、主な確認は越冬のため一時的に通過した個体と考えられることから、間接的影響は小さいと予測される。

表 10.8-32 (1) 保全すべき種の影響予測結果 (爬虫類)

種和名	確認状況	予測結果	
		直接的影響	間接的影響
ニホンイシガメ	・春季調査時に事業計画地北西部に位置する工業団地内調節池にて、岸辺で摂食する成体を確認。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である水域環境は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。	・建設機械の稼働及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である水域環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。
ヒガシニホントカゲ	・春季及び夏季調査時に大森調節池に隣接した明るい樹林の林床や土手の草地上で日光浴中の成体を確認したほか、大森調節池近くの工場の植え込みで採餌する成体を確認。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である草地環境は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。	・建設機械の稼働及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である草地環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。

表 10.8-32 (2) 保全すべき種の影響予測結果 (爬虫類)

種和名	確認状況	予測結果	
		直接的影響	間接的影響
ジムグリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋季調査時に大森調節池に隣接する樹林の林床にて腐朽した材の下に潜む成体を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である林縁の草地環境は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である林縁の草地環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>
アオダイショウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春季及び秋季調査時に調査範囲北側を流れる不老川河岸の蛇籠の上で日光浴をする成体と不老川に近い草地脇の裸地にて日光浴中の幼体を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である草地環境は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である草地環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>
シマヘビ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏季調査時に大森調節池の草が刈り取られた土手で日光浴中の成体を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である草地環境は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である草地環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>
ヒバカリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋季調査時に大森調節池に隣接する樹林の林床にて腐朽した材の下に潜む成体を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である樹林地や湿性池は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である樹林地や湿性池は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>

表 10.8-33 保全すべき種の影響予測結果（両生類）

種和名	確認状況	予測結果	
		直接的影響	間接的影響
ニホンアカガエル	・夏季及び秋季調査時に大森調節池の敷地内の草地や樹林で多くの成体や幼体を確認。また、繁殖期（2月）には大森調節池にて多数の卵塊と、夜間調査時に鳴声を確認。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である止水域は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する	・建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である止水域は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。
シュレーゲルアオガエル	・夏季に大森調節池の岸辺で鳴声を確認。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である止水域は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する	・建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である止水域は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。

表 10.8-34 保全すべき種の影響予測結果（昆虫類）

種和名	確認状況	予測結果	
		直接的影響	間接的影響
エサキアメンボ	・夏季調査時に大森調節池のヨシ原で1個体を確認。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である止水域は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。	・建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である止水域は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。
オオチャバネセセリ	・夏季調査時に大森調節池付近の草地を飛翔する1個体を確認。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である草地環境は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。	・建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である草地環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。
コシロシタバ	・夏季調査時に大森調節池の雑木林と池の間に設置したライトトラップにより1個体が確認された。	・工事用地の土地形状変更や造成地の存在により、本種の生息環境は消失するものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である樹林環境は対象業実施区域外に分布することから、直接的影響は小さいと予測する。	・建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、確認場所は事業計画地外であること、本種の生息環境である樹林環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測する。

表 10.8-35 (1) 保全すべき種の影響予測結果 (魚類)

種和名	確認状況	予測結果	
		直接的影響	間接的影響
ドジョウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>春季には、不老川の計画地上流部、下流部、谷川の上流部、林川分流後で計 12 個体を確認。夏季には、不老川の計画地上流部、下流部、谷川の上流部、下流部、林川分流後、林川の谷川分流後、大森調節池で計 19 個体を確認。秋季には、不老川の計画地上流部、下流部、谷川の上流部、下流部、林川の谷川分流後、大森調節池で計 29 個体を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事用地の土地形状変更や造成地の存在に伴う排水により、本種の生息環境の悪化が懸念されるものの、「10.5 水質」で示すとおり、濁水に対する環境保全措置を講ずること、予測の結果、水質に係る基準や目標との整合性も図られていることから、直接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設機械の稼働及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は移動能力を持ち合わせていること、本種の生息環境である水域環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測される。</li> </ul>
ミナミメダカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>春季には、不老川の計画地上流部で 3 個体を確。夏季には、谷川の本川分流後、林川の谷川分流後で計 2 個体を確認。秋季には、不老川の計画地下流部、林川の谷川分流後、大森調節池で計 3 個体を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事用地の土地形状変更や造成地の存在に伴う排水により、本種の生息環境の悪化が懸念されるものの、「10.5 水質」で示すとおり、濁水に対する環境保全措置を講ずること、予測の結果、水質に係る基準や目標との整合性も図られていることから、直接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設機械の稼働及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は移動能力を持ち合わせていること、本種の生息環境である水域環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測される。</li> </ul>
ジュズカケハゼ	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季には、不老川の計画地上流部、下流部、大森調節池で計 13 個体を確認。秋季には、不老川の計画地上流部、下流部、大森調節池で計 8 個体を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事用地の土地形状変更や造成地の存在に伴う排水により、本種の生息環境の悪化が懸念されるものの、「10.5 水質」で示すとおり、濁水に対する環境保全措置を講ずること、予測の結果、水質に係る基準や目標との整合性も図られていることから、直接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設機械の稼働及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種は移動能力を持ち合わせていること、本種の生息環境である水域環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測される。</li> </ul>

表 10.8-36 保全すべき種の影響予測結果（底生動物）

種和名	確認状況	予測結果	
		直接的影響	間接的影響
ナミウズムシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春季に不老川の計画地上流部で3個体を確認。夏季には林川の谷川分流後で4個体を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事用地の土地形状変更や造成地の存在に伴う排水により、本種の生息環境の悪化が懸念されるもの、「10.5水質」で示すとおり、濁水に対する環境保全措置を講ずること、予測の結果、水質に係る基準や目標との整合性も図られていることから、直接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種の生息環境である水域環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測される。</li> </ul>
コシガタ ヒメモノアラガイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春季に谷川の計画地上流部で1個体を確認。夏季には林川の谷川分流後で2個体を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事用地の土地形状変更や造成地の存在に伴う排水により、本種の生息環境の悪化が懸念されるもの、「10.5水質」で示すとおり、濁水に対する環境保全措置を講ずること、予測の結果、水質に係る基準や目標との整合性も図られていることから、直接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種の生息環境である水域環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測される。</li> </ul>
カワコザラガイ属 (カワコザラガイ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春季に谷川の計画地下流部で2個体を確認。夏季には、不老川の計画地下流部で1個体を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事用地の土地形状変更や造成地の存在に伴う排水により、本種の生息環境の悪化が懸念されるもの、「10.5水質」で示すとおり、濁水に対する環境保全措置を講ずること、予測の結果、水質に係る基準や目標との整合性も図られていることから、直接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種の生息環境である水域環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測される。</li> </ul>
コバントビケラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏季には、林川の谷川分流後で1個体が確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事用地の土地形状変更や造成地の存在に伴う排水により、本種の生息環境の悪化が懸念されるもの、「10.5水質」で示すとおり、濁水に対する環境保全措置を講ずること、予測の結果、水質に係る基準や目標との整合性も図られていることから、直接的影響は小さいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建設機械の稼動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、本種の生息環境である水域環境は対象業実施区域外に分布することから、間接的影響は小さいと予測される。</li> </ul>

### 10.8.3 評価

#### 1) 工事（建設機械の稼働，資材運搬等の車両の走行，造成等の工事）による影響及び存在・供用（造成地の存在）による影響

##### (1) 評価の方法

###### ア. 回避・低減に係る評価

環境保全措置の検討結果を踏まえ，保全すべき種について，それらを保全するために適切な措置を講じ，影響が実行可能な範囲内での回避・低減が図られるか否かを評価基準とする。

###### イ. 基準や目標との整合性に係る評価

以下の事項を目標として，整合が図られているかを判断する。

- ・環境省レッドリスト 2020 の記載種の保全
- ・埼玉県レッドデータブック動物編 2018 の台地・丘陵帯の記載種の保全

##### (2) 評価の結果

###### ア. 回避・低減に係る評価

予測の結果，工事（建設機械の稼働，資材運搬等の車両の走行，造成等の工事）による影響及び存在・供用（造成地の存在）による影響は小さいと考えられる。また，表 10.8-37 に示す環境保全措置を講ずることで，さらなる動物への影響の低減に努めていく。

このことから，動物相や保全すべき種の自発的移動や計画地への回帰が促され，影響を低減できるものとする。よって事業者の実行可能な範囲内で環境影響をできる限り回避・低減が図られていると評価する。

なお，予測の不確実性に対しては，本事業の工事中モニタリングを実施し，対象種の保全状況を確認する。

表 10.8-37 (1) 工事（建設機械の稼働，資材運搬等の車両の走行，造成等の工事）による影響及び存在・供用（造成地の存在）による影響に対する環境保全措置（陸域生物）

保全措置の種類	低減	低減	低減	代償
実施主体	事業者	事業者	事業者	事業者
実施内容	工事中の大気・水質・騒音・振動に係る環境保全措置を確実に実施する。	施工の際は，急激な改変を避け，周辺環境への個体の自発的な移動を促す。	工事期間中は動物相についてモニタリング調査を行い，事業による影響が認められる場合は追加の保全措置を検討する。	進出企業に対しては緑化を要請し，生物の新たな生息空間や移動路となる緑被地を創出する。
実施時期	工事中	工事中	工事中	事業計画立案時
効果	計画地及び周辺の動物種の生息に対する影響を軽減できる。	計画地の改変場所から隣接する残存環境への自発的な移動を促すことで，個体への影響を軽減できる。	動物相への影響を軽減できる。	事業実施により一旦逃避した草地・樹林性の昆虫類やこれらを餌とする鳥類の回帰が期待される。
効果の不確実性	なし	なし	なし	なし
他の環境への影響	なし	なし	なし	なし

表 10.8-37 (2) 工事（建設機械の稼働，資材運搬等の車両の走行，造成等の工事）による影響及び存在・供用（造成地の存在）による影響に対する環境保全措置（水生動物）

保全措置の種類	低減	低減	低減
実施主体	事業者	事業者	事業者
実施内容	工事の進捗に合わせ，適切な場所に沈砂池を設置する。	沈砂池内の堆積土砂については，計画的に撤去を行い，下流への土砂の流出防止に努める。	工事中の水質に係る環境保全措置を確実に実施する。
実施時期	工事中	工事中	工事中
効果	濁水の発生量を低減できる。	濁水の発生量を低減できる。	計画地及び周辺の水生動物の生息に対する影響を軽減できる。
効果の不確実性	なし	なし	なし
他の環境への影響	なし	なし	なし

#### イ. 基準や目標との整合性に係る評価

工事（建設機械の稼働，資材運搬等の車両の走行，造成等の工事）及び存在・供用（造成地の存在）による保全すべき種等への影響について，生物の生息に配慮した公園の整備などの環境保全措置を実施することにより，保全すべき種が保全され，保全対象種の自発的移動や計画地への回帰が促されることから，基準，目標等と整合が図られていると評価する。